

## 日本とアメリカのあいさつ文化の比較

### Comparison of Greeting Culture between Japan and the United States

マーシャルゾーイ

Zoe Marshall

82-271 – Intermediate Japanese I

## 日本とアメリカのあいさつ文化の比較

私のトピックは、あいさつ言葉で、私はアメリカ人だから、日本とアメリカのあいさつ言葉を比較する。あいさつ言葉については、教科書の読み物や会話で勉強し、授業中にグループでディスカッションした。また、スピーキングアシスタントのますださんに、日本のあいさつ言葉について質問して教えていただいた。

日本の紹介文化は、とても厳しい。だから、たくさんルールがある。例えば、日本人は、同じ日に2回目に会った人には、もう一度あいさつをせずに会釈する。日本では、午前中に先生に「おはようございます」と言ったら、午後に「こんにちは」と言ってはいけない。そして、エレベーターで一緒になった時など、知らない人に会っても、あいさつをしない。それから、日本語には、たくさん決まり文句がある。例えば、食べ物を食べる時、「いただきます」と行って、食べた時「ごちそうさまでした」と言う。さらに、日本人はあいさつをしたら、よくお天気のことを話す。でも、スピーキングアシスタントのますださんによると、知り合いにあいさつをしたら、世間話ができる。また、日本の大都市の人は、郊外の人ほど人懐っこくないそうだ。

ところで、アメリカでもあいさつの後よくお天気の話をする。例えば、「寒いですね」とか「雨が多い」と言う。でも、日本と違い、同じ日に2回目に会った人には、もう一度あいさつ

するかもしれない。私は、同じ日にルームメイトに「おはよう」と「こんにちは」と「こんばんは」と言う。そして、アメリカでは、エレベーターなどで、知らない人であっても、たいていあいさつはしないけれど、それは決まったルールではない。それで、英語には決まり文句になったあいさつ言葉が少ない。例えば、英語には「いただきます」とか「ごちそうさまでした」に当たる決まり文句がない。

スピーキングアシスタントとの第二の会話中に、私はあいさつの違いについて多くのことを学びました。最初に、同じ日に増田さんは家族に「おはいよございます」と「おやすみなさい」と言うが、「こんばんは」と言っていない。増田さんによると、こんばんはは型苦しすぎるそうだ。それから、自身を紹介する時、おじぎをするの後または中に、「どうも初めまして」と言う。それに、日本では、握手をしないけれど、アメリカでは、しばしば握手をする。だから、増田さんによると、日本のインタビューでは、おじぎをするが、アメリカのインタビューでは、握手をするそうだ。また、増田さんは、日本の都市と農村の違いについて話した。増田さんによると、しないで、日本人は、恥ずかしがりやとひみつだから、ほとんどの時間知らない人を迎えることがないそうだ。でも、田舎では、人々はより親切だから、時々知らない人を迎えるそうだ。だから、日本の都市と田舎は、違う。

だから、日本とアメリカではあいさつの仕方は少し違う。アメリカは日本ほど多くあいさつのルールがない。でも、日本やアメリカの国民にあいさつするのは一般的でないから、アメリカでも日本でもエレベーターで知らない人にあいさつしない。そして、アメリカは決まり文句がないから、日本とアメリカの決まり文句を使う場面は、違う。例えば、日本では、食べる前に、「いただきます」と言うと、食べた時に、「ごちそうさまでした」と言う。アメリカでは、何も言わない。私の意見では、日本にはあいさつに関する多くのルールがある。例えば、本人は、同じ日に2回目に会った人には、もう一度あいさつをせずに会釈する。でも、アメリカ

カには、1日に2回あいさつしないことについてのきそくはない。結論として、アメリカのルールは少ないから、日本ほど硬直していないと考える。